



## 大和グループの「揺るぎない安全を築く」

大和電設工業株式会社

### はじめに

弊社では、2017年度末の転落事故以来、「揺るぎない安全を築く」を合言葉に、全社員、全作業員への安全意識の定着、向上に取り組んでまいりました。

日々の取組みとしては、毎日の危険工程を把握し、各サ総エリアの状況やトピックス等の共有化を行うため、Teamsを活用した朝ミーティングを実施しています。

具体的には、各センタから当日の天候状況、作業班数、故障件数、危険作業の内容、ケーブル切断責任者や立会者の確認、朝礼での周知事項等を報告してもらい、大和

グループ本社からは全国で発生した事故事例や指示事項等の周知等を行っています(図1)。

ときには、大和グループ各社長や役員からも安全メッセージを発信していただき、必要に応じて、本社から各センタへ安全パトロールに出かけたり、施工班をエリア間でシフトするなど、全エリア、全社員の安全意識を高めるとともに現場のサポートにも取り組んでいるところです(写真1・2)。

また、毎月1回の「安全施策推進会議」を通して、安全に関わる施工班の層別や施工品質の実態報告に基づき、新たな施策の検討、議論を行っています。

朝ミーティング記録(施工体制等の確認表)										メニューへ戻る			
		当日の施工班体制								本日の故障受付件数	本日の加入系切替件数	本日の作業における危険工程	
		SO	サ総AC	一般AC	IRU	土木	故障	運保	委託				計
宮城	班数	19	9	6			4	4		42	11	メタル: 2 光: 1	一般工事 青葉通20-001-共架柱建替え(指揮者 斎藤 茂樹) 青葉通20-001-共架柱建替え(指揮者 佐藤 幸夫) 仙南20-003-共架柱建替え(指揮者 佐々木 亮) ① ② ③ サ総 架空ケーブル撤去(野郎班 切断責任者 野郎 優) メタル切替(西村班1件) メタル切替(土生班1件) 光切替(高橋班1件)
	人数	24	28	28			4	6		90			
仙南	班数	5	4				3	4		16	6	メタル: 1 光: 0	①なし ② ③
	人数	5	14				3	4		26			
いわき	班数	13	7	6		4	5	7		42	7	メタル: 3 光: 1	①1398253内掘ビル深層班ケーブル撤去 ②1400081いわきビル佐藤班ケーブル撤去 ③サ総、中光雷岡〜浪江160心地下切替(日中帯) 吉田班
	人数	14	26	21		15	6	11		93			
須賀川	班数	10	6	2	2	1	5	4		30	8	メタル: 1 光: 3	①鈴木裕史班 白旗ビル 昼夜光切替(夜:専用線備用) ②鈴木班 三神ビル明神 中島ビル平鉢 メタル切替 ③佐藤班 須賀川ビル鶴山山一里担 ケーブル撤去
	人数	11	17	5	4	2	5	5		49			

図1 朝ミーティング確認表



写真1 朝ミーティング参加のシグマックス高橋社長



写真2 遠原社長による安全パトロール

今回は、この「安全施策推進会議」で議論し、大和グループとして取り組んでいる施策を3点紹介します。

## 1. 「安全センタ」の設立による見守りの強化

まず、1つ目の取組みは、安全センタの設立による見守りの強化です。

現場への見える化カメラ導入を機に、安全センタを立ち上げ、見える化カメラのモニタリングを一元的に実施しています。

安全に精通している大和グループのOB社員約10名にご協力いただき、ご自宅のPC環境整備を行うとともに、在宅で無理なく現場施工班の映像を確認し、気づきをレポートして、先の「安全施策推進会議」に「見える化カメラ確認結果レポート」として報告をしてもらうこととしています(図2・写真3・4)。

また万一、不安全行動が見受けられた場合は、レポートと映像を当該センタに通知し、当該班の指導を行うこと、指導後の履行確認は安全専任者による現地パトロー

ルで確認することとし(写真5)、他方、安全に十分配慮されていたと認められた作業班には、褒賞を出すことにしています。

安全センタの立ち上げ時は、モニタを通しての安全判定に迷ったようですが、メンバ全員への意見照会および定例の会議等により、目線合わせを行うことによって、次第に判断基準の標準化ができるようになりました(写真6)。

現在は、全施工数の1割程度のモニタリングを目標に、全施工班に対して月1回以上をモニタリングすることとしています。今後は安全リテラシーの低い班や、当日危険工程に従事する班などをモニタ画面から検索するなどして、より効果的なモニタリングに向けて、改善・検討を行っているところです。

2021年の2月からはNW作業を、5月からは土木作業の映像確認も開始する予定としており、今後大和グループ全作業を見守る文化の定着に向けて取り組んでいきたいと考えています。



写真3 自宅での映像確認 (千葉さん)

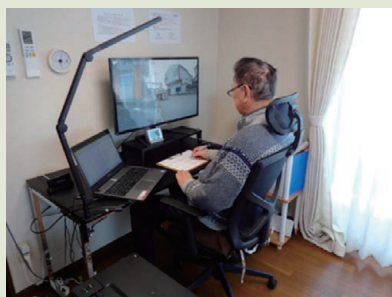


写真4 自宅での映像確認 (今井さん)



写真5 支店での映像確認・指導状況

【青葉通】		見える化カメラ確認状況 (1月分_宮城EGC)							※4月30日センタ公開資料 ※安全専任者2名は毎日 ※施工リテラシー向上
センタ名	作業班数 (班数)	現場数	確認 件数	見 数 (O)	確認結果		映像確認 不可等 ? ※3	備 考 (不適合内容等)	
					不安全行動 ※1	大和ルール (△) ※2			
青葉通	AC	17	344	56	53	-	2	1	※2 1/1(ワットから取り回りの補助ロープ掛け不備、確認できず2件 (OO社 △△班)) ※3 安全の確保の観点から保安帯を設置してからカメラ 稼働すること(12名にも同様の指導あり) (XX社 △O班)
	US	12	362	31	31	-	-	-	
	設備	9	107	28	28	-	-	-	
合 計		38	813	115	112	-	2	1	

◇◇◇大和建設工業グループ安全文化の醸成◇◇◇重傷な人身事故の未然防止◇◇◇

※1 1月期の成果【131回分】  
①特に重大な事故は発生していない。  
※2 不安全行動 補助ロープ不備1件、映像確認できず1件、カメラの設置不備1件  
【その他】  
◎センタと協力し取り廻らなごこと  
・新年に入ったの未稼働班 (AC2班、US2班、保安1班) ⇒ AC2班 (酒田に移動1班、他班と合流1班)、UC (1/13と1/20から  
再稼働2班、保安は該当班なし1班  
・撮影不備3班 (高圧線1班、途中撮影班1班、途中電源断1班) 指導依頼  
◎センタにお願いしたこと  
・安全作業の徹底に向けた基本サイクルの徹底指導【保安帯の設置⇒カメラ設置⇒KY⇒乗りこみ (ワットに入る前の補助ロー  
プ掛け) ⇒検査 (検査済札取り付け) ⇒乗りこみ (ワットを出てから補助ロープをはずす)】

図2 見える化カメラ確認結果レポート



写真6 安全センタ会議の様相



## 2. 「パト吉」による安全パトロールの効率化

2つ目の取組みは、現場安全パトロールの効率化に向けた取組みです。

弊社は、東北のサ総エリアを、10センタで業務運営しており、各センタに安全専任者を配置し、日々現場のパトロールを実施しています。

これまで、安全パトロールの点検結果はデジカメで現場写真を撮影し、紙の点検表へ記入、月次報告時は点検結果を集計、安全指導用の資料作成や写真整理など、多くの時間と労力を要していました。

そこで、安全専任者等からの意見要望を聞き取り、タブレットを用いて安全パトロールができる「パト吉」を開発し、2018年9月から本格運用しました（図3）。

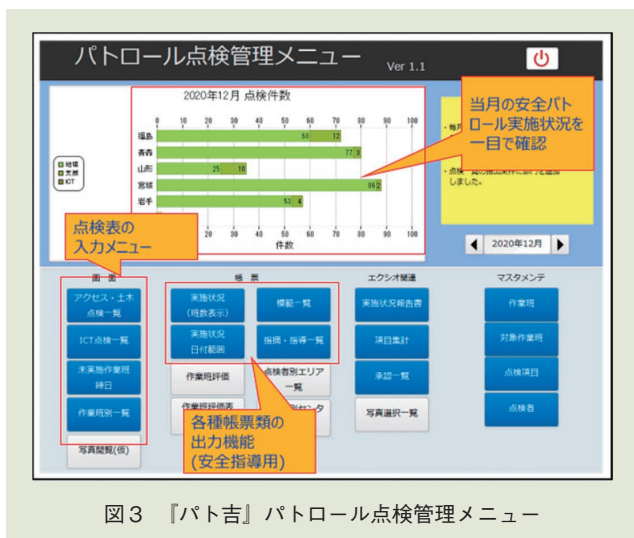


図3 「パト吉」パトロール点検管理メニュー

まず、タブレットを活用して、これからパトロールする作業班の情報や過去の指摘情報などを事前に確認することができます。

パトロール時は現場の写真撮影、点検表を入力し送信することによって、クラウドサーバーにその情報が追加されます。

その結果、パトロールの自動集計、パトロール未実施作業班の一覧、作業班の層別化や安全リテラシーの経年推移など、集計作業に労を要することなく、戦略的、効果的なパトロールが可能となりました（図4）。



図4 「パト吉」の主な機能

ちなみに安全パトロール件数は以前に比べて1.5倍に増え、1班あたり月2回のパトロール実施が可能となりました。

今後は、さらなる効果的なパトロールを目指して、作業指示書システムとの連携により、当日に危険工程のある作業班を優先的にパトロールするなどの検討をしています。

## 3. STOP&LOOKの徹底と定着

3つ目の取組みですが、作業員の安全、設備の安全を守る取組みとして、親会社の協和エクシオグループでは「STOP&LOOK」の取組みを展開しております（図5）。



図5 「STOP&LOOK」

危険を感じた場合や指示と現地が違う場合、作業手順が守れない場合等は、いったん立ち止まり疑問を解消してから作業を開始することとしていますが、それでもなお疑問が解消しない場合や安全が守れないと判断した場合は、作業班は事務所へ連絡し、現場代理人の指示を仰ぐことを基本動作として取り組んでいます。

安全を現場まかせにせず、組織ぐるみで現場の安全を守る取り組みです。

大和グループでは、作業班からの連絡に基づき、現場作業をいったん中止し改めての作業をせざるを得ないと判断した場合には、作業班に対して掛かった労務費を補償することを、試行的に実施してまいりました（図6）。

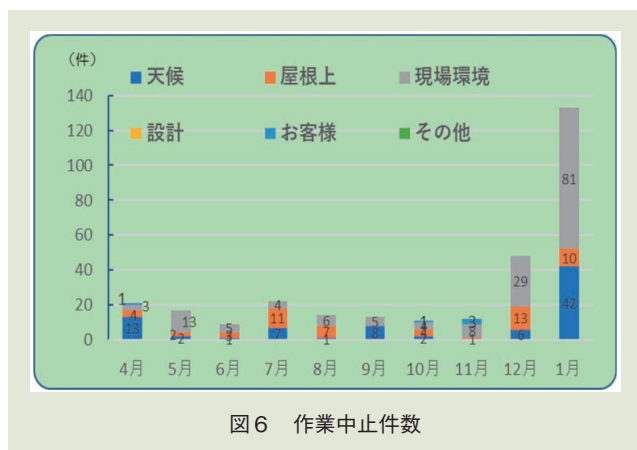


図6 作業中止件数

ちょうど1年経過したところですが、作業員自らが安全を意識して発信するようになり、事務所と現場の2ウェイコミュニケーションが定着しつつあるように感じています。

特に、東北においては、冬は暴風雪の厳しい作業環境となるため、作業の中止件数は増える傾向にあります。今のところ作業員からは無理な作業は減ったので安心感が増したと高評価になっております。

引き続き協力会社の皆さんとの対話を通じて、モニタリングを継続し、事故の未然防止に努めていこうと考えています。また、これら工事中止の事例をデータベース化し、ヒヤリハット集にまとめるとともに、個々の事例に基づいて検証を行い、設計、施工手順や工法の見直しなどの提言につながるよう取り組んでまいります。

## おわりに

2020年度は、私たちの業界において死亡事故2件と残念な事故が発生しました。また東北においては、コロナ禍の2021年初から豪雪、地震、強風と厳しい状況が続きました。安全意識の阻害要因は形骸化、慢性化であり、年間をとおして全社で緊張感を高め、維持するために、大和グループにおいて「Dアラート（安全警戒レベル）」の発出を検討しています。

アラートⅠは通常モード、アラートⅡは安全推進期間等（警戒モード）、アラートⅢは非常事態宣言時（非常事態モード）を想定し、それぞれのレベルに応じて安全意識や取るべき行動を変えていこうとする指標です（図7）。

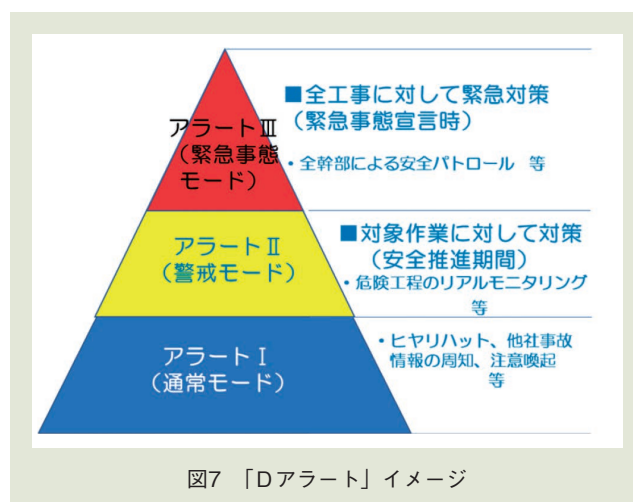


図7 「Dアラート」イメージ

以上、地道ではありますが、大和グループの揺るぎない安全の定着に向けての施策を紹介しました。これらの施策を中心に引き続き「事故0」に向けて取り組んでいく所存です。

最後に、読者各社様の新しい年度の安全、無事故を願ひ、本投稿記事が各社様の安全施策の一助になれば幸いです。